

かに納入せらるること
 二、未だ應募せられざる組合員（新加入組合員も含めて）出来得る限り速やかに應募せらるゝこと
 三、建設後援會の活動を促し、之を鞭撻すること
 尙建設委員會は右の諸方法に依るも期限に至る迄に支拂金の一万圓に達せざる時は、各加盟組合の基金中より借受けて支拂ふ様、其の手續きは常任委員會に一任した。斯くて十月末日迄には確實に登記其他の手續を完了する豫定である。

唯一館の歴史

唯一館は自由基督教の傳導を目的とし、明治廿七年建設されたるものであるが、爾來四十年間日本の進歩思想、社會運動は、此所を中心として發展したりと云ふも餘り過言でない。福澤諭吉、片山潜、幸徳秋水、安部磯雄等々我國自由主義、共產主義、無政府主義、社會主義思想の先達的人物は、この唯一館に密接な關係を有する。明治卅一年結黨、直ちに解散を命ぜられたる我國最初の（嚴密な意味に於いて）無産階級たる安部磯雄氏等の社會民主黨も此處に於いて結黨の準備が進められたのであつた。大正元年八月、鈴木文治氏の手につけて創立されたる友愛會は、爾來二十年幾多の艱難を突破して現に我日本勞働總同盟となり、我國

勞働組合運動の中堅勢力として活動して居るのみならず我國の社會運動、農民組合運動、勞働組合運動の左翼、中間、右翼と稱せらるゝ幾多の勢力も、殆んど盡くこの唯一館に源を發する。我等は斯くの如き歴史と由緒を有する唯一館が、我が關東勞働同盟會加盟組合員諸君の努力に依つて、茲に日本勞働會館建設委員會の手に收められたに就き、種々なる意味に於いて深き喜びを感じる次第である。

會館建設豫定の變更

日本勞働會館は概算十八萬圓の豫算を基礎として計畫のプログラムを建てたのであつたが、其後財界不況は深刻を極め、減給、失業相次いで起り、而も今後の見透しも殆んど付かぬ状態である。依つて寄附金も未だ豫定の九分の一に過ぎず、組合員間の寄附豫定八萬圓には漸く四分の一に達したるに過ぎざる有様であつて、今日、最初の計畫を短期間に完成せんとするは殆んど不可能であると云はねばならぬ。故に第四回建設委員會は、豫定を變更し、計畫を第一期、第二期に分ち、土地、建物の買収、其改修、これに要したる費用を皆済し終りたる時を以つて第一期とし、而して、おもむろに第二期計畫に入り、最初の豫定通りの會館建設を見る迄、たゆまず努力を繼續することを申し合せた。依つて取敢へず金五千圓を以つて現建物に修理

改造を加へて、最初の豫定程には至らざる迄も、相當立派なる會館を出現し得る見込みである。
 尙、右會館を管理する爲めに、後援會及寄附應募組合代表者を理事とする獨立財團を組織し、勞働組合運動のみならず、消費組合運動、教育運動、福利増進運動等々一切の無産階級運動の中心たらしむべき施設を行ふに就いての研究、準備に關する一切を一任されたる常任委員會は、着々仕事を進めて居る。餘り遠くない時期に其實現を見るであらう。

日本勞働會館建設寄附金

(自昭四年九月二十一日
 至昭和五年八月二十日)

寄附金受附高	
本年受高	二、二一七・五〇
前年越高	二五、七四五・三八
計現在高	二七、九六二・八八
領收金額	
本年受高	八、二〇二・七〇
預金利子	三九九・九〇
前年越高	一一、一八〇・九五

合計 一九、七八三・五五

内支出金

土地建物買収代第一回支拂内金 一九、〇〇〇・〇〇
 後援會交通費(龜戸第一扱) 一九〇〇

差引現在金 七六四・五五

寄附金總額内譯表

名	豫約高	領收高
會館建設後援會	三、七八六・八〇	二、七〇九・一八
關東勞働同盟會	八七七・〇〇	四七六・四〇
東京鐵工組合	二〇〇・〇〇	二〇〇・〇〇
大崎第一支部	四・〇〇	一・五〇
同 第二支部	一六四・〇〇	五〇・二〇
同 第三支部	二二〇・〇〇	一三〇・八七
同 第五支部	—	—
同 第六支部	三六五・〇〇	二六〇・六〇
同 第十支部	—	—
同 第十一支部	五三一・〇〇	四〇四・二六
品川第一支部	—	—
同 第二支部	—	二七〇・〇〇